

萌黄 (もえぎ) 通信

「もえぎ」、とは私の一人娘の名前です。誕生年と創業が同じなんです。



みなさん、新年明けましておめでとうございます。今年も皆様にとって良い一年でありますようお願い申し上げます。新年は、大体は、御前崎の実家に帰って、のんびりと過ごすのが定番になっています。

皆様も、中にはゆっくりと、実家で寝正月を決めている方も多いかと思いますが、つつい食べ過ぎて、ベルトの穴がきつくなならないように気をつけてください。最近、一度太るとなかなか、元に戻すのが困難な堀内貢次です。

「石庭」と思案に耽る？ 娘

年の瀬に急な現調が入り急ぎよ、京都の現場に行ってきました。テスト施工と打ち合わせは約1時間くらいで終了し、そうなので、せっかくの冬休みでしたから、少しお寺の散策

を家族でしてきました。行ってみたいお寺はと聞いたところ、「龍安寺の石庭」ということで、早速行って見ました。中学二年で石庭とは、さすが、石材メンテナンス業の子供とある意味で感心してしまいました。



油のシミは早い対応が一番！

今回の石材メンテナンスは、都内のマンションで、エントランスの床石にエンジンオイルのような油シミが付いてしまい、普通の洗浄では除去できないので何とかしてほしいと、管理会社からの依頼です。

管理会社でもいろいろ洗浄を行ったようですが、油のシミが石の目の奥深く入り込んでなかなか抜けないようです。

バイクのタンクに穴が開いていたような洗浄のシミになっていますね。

まずは、全体の洗浄をしっかりと行います。(そうしないと、シミ抜き後に、そこだけが線状に綺麗になってしまい返って目立ってしまいます。)

それから、シミの部分へアルカリ洗剤で湿布を行っていきます。約3~5時間後に湿布を剥がして、更に洗浄をしていきます。

乾燥後、完全に油分が執りきれない部分には、再度

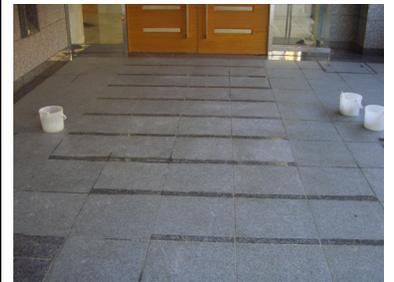
シミがくっきりと表れてきますので、その部分へは、湿布の繰り返しや、トーチ等を使用して油の部分を加熱で浮き上がらせていきます。

後半はこの作業の繰り返しで、ひたすら1枚1枚の



石に時間をかけて油を抜いていきます。

結果、何とか油シミの形が分からないまでに持っていくことができました。



石の黄変シミ対策！

オフィスビル引き渡し後、1カ月点検で、「石材の黄シミあり」という項目で引っ掛かり、石屋さんの依頼で、石のシミ抜きに行ってきました。現調も出来ないまま現場に向かったのが、石材が黄色いシミを作る考えられる限りを想定して、シミ抜き剤



を持って行きました。

今回のシミは、10センチ大で、シミというよりも、ボンドの付着物でしたので、溶剤で簡単に取れましたが、車の中には、トーチや漂白剤、剥離剤、他の溶剤、プロパンバーナー、ルーター、養生シート等でぎっしり埋まり、他の工事も出来そうな位の材料になりました。

萌黄通信 毎月1回発行

発行編集責任者 (有) ケイ・アンド・エス 堀内貢次

(東京出張所) 東京都港区浜松町1-1-10

(電話) 03-3431-0387 (Fax) 03-3431-7198

<http://www.e-kands.jp>

(メール) kandsstg@jt4.so-net.ne.jp